

広葉樹苗木に対する除草剤の影響

1 研究のねらい

広葉樹苗木を生産するにあたって、専用の除草剤が市販されていないため、一般農業用の除草剤を用いる必要があるが、これらの薬剤によって苗木に葉害が生じる心配がある。そこで、林業苗畑でスギ、アカマツなどに広く使用されている除草剤を用いて、代表的な広葉樹の苗木に対する影響を調査した。

2 研究方法と結果

- (1) 試験材料：コナラ（4年生苗木）及びイタヤカエデ（2年生苗木）の2種類を用いた。
- (2) 使用除草剤：吸収移行型4種類、接触型1種類、計5種類を用いた。
- (3) 散布方法：標準濃度で苗木の葉面全体にかかるように散布した。

- (4) 散布時期：新葉が出ている8月に散布した。
- (5) 調査方法：散布してから10日程度をおいた後、苗木の葉の変化（葉害状況）を外観から判断した。
- (6) 結果：コナラ、イタヤカエデ共、接触型除草剤を散布した苗木の多くに新葉が萎縮するなどの葉害が見られた。また、吸収移行型の除草剤でも若干の葉害が見られた。

3 成果

今回使用した除草剤は、針葉樹に普通で使用されているものであるが、コナラ、イタヤカエデ苗木に対しては、生育期間中使用する場合には新葉に薬剤をかけないようにする必要があることが明らかになった。

広葉樹苗木に対する除草剤の影響比較

除草剤名	一般名	殺草作用による区分	葉害が発生した本数	
			コナラ	イタヤカエデ
ナブ乳剤	セトキシジム剤	吸収移行型	少ない	少ない
ゴーゴーサン乳剤	ペンディメタリン剤	吸収移行型	中くらい	少ない
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン剤	吸収移行型	中くらい	少ない
シマジン水和剤	CAT剤	吸収移行型	少ない	少ない
ダイヤモンド水和剤	クロルフタリム剤	クロルフタリム剤	多い	多い

注) 少ない：30%以下，中くらい：30～70%，多い：70%以上



コナラ苗木に対する接触型除草剤の影響



イタヤカエデ苗木に対する接触型除草剤の影響

(担当者 育種緑化部 専門研究員 神山 博希)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11 TEL 019-697-1536
 岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>